

# 令和2年度 京都大学一般入試 出題意図等

## 国語（文系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般入試学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

## 文系

### 出題意図（問題□全体）

題材の文章は文学論であるが、すべてが明示的に語られているわけではなく、論旨の読み取りには一定程度の読解力が必要である。このような文章において筆者の論議を正確にたどることができるか、また人間一般の微妙な心理的傾向にかかわる叙述の読解ができるかを問う。あわせて文章理解を適切な表現によって表現できるかを問う。

### 出題意図（個別問題）

問一：傍線部（1）に示されている人間心理の微妙な綾を読み取り、それを適切に叙述する能力を問う。

問二：文中の人間心理の描写を踏まえて、傍線部（2）の「自分の欠点を相手のこととして並べ立て」ることが「他人を有効に罵」ることにつながることを確認し、それを適切な表現で表す能力を問う。

問三：アウグスチヌスの人間心理についての理解を描いた箇所を参考に、傍線部（3）で言う「矛盾」が何を意味するか読み取り、その事態を正確に叙述する能力を問う。

問四：筆者の必ずしも読み取りやすいとはいえない論議を丹念にたどって、傍線部（4）に言う「信念」喪失の理由を読み取り、その理由を正しく叙述する能力を問う。

問五 直接的でない筆者の表現から、筆者の文学論をふまえつつ、傍線部（5）で述べられる事態がどうして生じるのか、筆者の考える理由を推測し、それを正しく叙述する能力を問う。

### 出題意図（問題□全体）

太宰治に傾倒した作家小山清による、井伏鱒二訪問記の一節である。井伏の人となりや魅力を多面的に浮き彫りにした、比喩的表現の多い文である。これを正確に読解した上で、設問に対して的確に説明する能力を問うものである。

### 出題意図（個別問題）

問一：筆者が井伏と対坐しているとき、亡くなった太宰を身近に感ずる理由について、井伏・太宰・筆者の関係を正確に理解した上で、的確に説明する能力を問う。

問二：井伏と話していると、筆者の気持ちが吸い寄せられていくように感じる理由について、井伏の人となりを手がかりにして、的確に説明する能力を問う。

問三：「芳醇な酒」「水」のそれぞれ比喩するところを対比的に理解した上で、設問内容を的確に説明する能力を問う。

問四：筆者の見る井伏について、「殊更に自分を人に野暮つたく印象づけようとしてみ

る」ほど「スマート」であるとはどういうことかを読解し、的確に表現する能力を問う。

問五：馬糞紙でこしらえたメンコによって荒れた心を柔らげる井伏を見ているうちに、筆者の心にどのような変化が起こったのか、その気持ちを把握し的確に表現する能力を問う。

#### 出題意図（問題Ⅲ全体）

問題文は『和泉式部日記』の一節である。平安時代の典型的な和文の文章を題材に、古典文法や古語の知識に基づいて正確に現代語訳する力、および登場人物の心情を読み解いて的確に説明する力を問う。

#### 出題意図（個別問題）

問一：基本的な古典単語や助詞・助動詞の理解に基づいて、和歌を正確に現代語訳する力を問う。

問二：傍線部が踏まえる和歌の大意を理解し、且つ前後の状況を把握した上で、女が相手に何を伝えたかったかを読み取ることを求める。

問三：場面の展開を把握した上で、本文に記述されている女の心情の推移を読み取り、的確なことばで説明する力を問う。

問四：古語と文法の知識に基づきつつ、主語など省略されている言葉を適宜補って、わかりやすく現代語訳する力を問う。